

アメリカ研修旅行記

(ニューヨーク・ピッツバーグ・フォートワース・ロサンゼルス)
建築巡礼の旅

architect office:

(株)アーキノヴァ設計工房

代表取締役 柏本 保

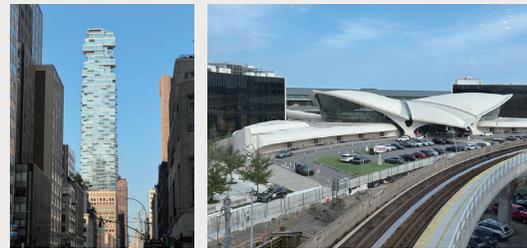


去る2024年9月13日から9月23日までの11日間、アメリカ研修に行って来ました。東京で勤務している息子との「建築好き父子の珍道中」『建築巡礼の旅・第6弾』です。この所、新型コロナ禍期の全く身動きのできない2年間を除き、毎年ヨーロッパに建築研修に行っておりましたが、息子と協議の結果、今回は目先を変えてアメリカ研修に行くことにいたしました。主目的は巨匠フランク・ロイド・ライトの名作「落水荘」の見学ですが、まずはニューヨークに3泊。可能なかぎり多くの建築作品を見学し、その後ピッツバーグに1泊。落水荘等を見学後、テキサス州フォートワースに2泊。ルイス・カーンのキンベル美術館等見学後、ロサンゼルスに移り3泊。とまかくできるだけ多くの著名な建築家の作品と美術館を巡る、いつものながらの過密なスケジュールです。

9月13日(金)午前11時に羽田空港を出発。直行便で13時間の旅ですが、日本と14時間の時差の関係で同日アメリカ時間午前11時にニューヨーク・JFK空港に到着。1日得した気分です。初日は午後からの研修となり、効率良く回る都合上、宿泊ホテルに比較的近い『チェルシー・イーストビレッジ・ロウアーマンハッタン地区』の建築を巡ります。

まずは、スイスの建築家・ヘルツォーク&ド・ムロン設計の「40ポンドアパートメント」に行きました。彼らのニューヨークでのデビュー作となった高級アパートメントです。緑色のグリットの局面ガラスが印象的で、1階のゲートは前衛的で有機的なデザインとなっております。次はジャン・ヌーヴェル設計の「40マーサ集合住宅」。3方向道路の敷地に建てられた低層部とそこに建つ高層部の構成です。低層部6階の屋上はテラスガーデンになっており、プールが付属しているようです。全体的に艶やかな色

彩は抑え、意匠的に比較のおとなしい印象でした。



左上:40ポンドアパートメント、右上:40マーサ集合住宅、
左下:56レオナード・ストリート、右下:JFK空港ターミナル5

それからヘルツォーク&ド・ムロン設計の「56レオナード・ストリート」に移動しました。高さ約250mのコンドミニアムで、60階建て。その独創的な凹凸のある外観デザインはランドマーク性が高く、1階にある美術家アニッシュ・カプーアによるステンレスの謎めいた気球のような形の彫刻とのコラボが印象的でした。

ここから移動し、「ワールド・トレードセンター」に行きました。2001年のアメリカ同時多発テロで崩壊しましたが、2014年以降跡地の再開発により、記念博物館、メモリアルミュージアム、ニューヨークで一番の高さ(541m)を誇るワン・ワールド・トレード・センター等が順次オープンしました。リチャード・ロジャース、榎文彦等が設計に参加しております。また、ワールド・トレードセンター駅「オキュラス」を手掛けたのは、スペインの建築家サントティアゴ・カラトラバ。巨大な鳥が羽を広げたような外観が印象的で、内部も開放的かつ幻想的な空間。ルーバー状の白い空間を伝わって、天井からやわらかい自然光が注がれています。



左:ワンワールド・トレード・センター、
右:オキュラス



左:エンパイアステートビル、右:ニューヨーク旧市庁舎

その後、フランク・ゲーリー設計の「8スプルス・ストリート」に行きました。この建築は76階建ての居住用の超高層マンションですが、流れ落ちる布のようなウェブの縦のフレームが美しい外観です。それからジョセフ・マンガン設計の白亜の殿堂・ニューヨーク旧市庁舎を見学し、本日の研修は完了。

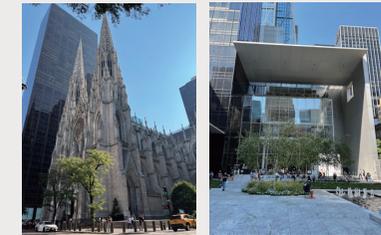
9月14日(土)2日目はミッドウエスト地区、ミッドタウンイースト地区の研修。本日は10か所以上の建築を巡るハードスケジュールです。

まずは、エンパイアステートビルを訪れました。1931年竣工の建築で、ワールド・レードセンターができるまで42年間世界最高の高さを誇っており、ニューヨークのシンボリックな建築です。低層部や最頂部には当時流行したアール・デコ様式が採用されています。次は、レンゾ・ピアノ設計による図書館&美術館「モルガン・ライブラリー増築」。残念ながら、訪れた時間が開館前であり、内部空間を見ることが叶いませんでした。

次に向かったのは「セントパトリック大聖堂」。アメリカ最大のカトリック教会であり、1888年に完成した建築。白い大理石をふんだんに使った教会のデザインはジェームス・レンウィックによるものです。5番街に建つ高さ100mのその美しいゴシック建築は高層ビル群の中に位置しますが、その存在感は他を圧倒しています。

そこから世界を代表するハイブランド街で有名なニューヨークの目抜き通り「5番街」を散策し、「ニューヨーク近代美術館」(愛称:MOMA)に行きました。1929年に設立された近代、現代アートの美術館であり、展示スペース拡大のために国際コンペを行い、増築の設計を提案した建築家・谷口吉生氏の設計案が採用され、2004年に再オープンしました。コレクションは15万点に

および、ピカソ、ゴッホ、マティス等名だたる画家の見ごたえある作品が多数鑑賞できました。



左上:セントパトリック大聖堂、右上:ニューヨーク近代美術館、左下:ゴッホ・星月夜、右下:アンディ・ウォーホル



次に「ベイリーパーク」に移動しました。小さい公園ですが、正面奥の壁面に大量の水量を誇る滝を設置。涼を呼ぶ演出がなされており、まさしく都会の中の「アーバン・オアシス」です。そこからオードリー・ヘプバーン主演の「ティファニーで朝食を」の映画ロケ地で知られる「ティファニー本店」を通過し、「レヴァーハウス」に向かいました。アメリカの組織事務所SOMの作品であり、今でこそ珍しくありませんが、1950年代当時は前面ガラス張りのはめ殺し窓で完全空調されたオフィス空間は極めて斬新でした。

そこから、すぐ近くのミース・ファンデル・ローエ設計の「シーグラムビル」に向かいました。1954年竣工のミース唯一のニューヨークの建築であり、モダニズム建築の金字塔といわれる建物。ブロンズのフレームとグレイのガラスで構成されたシンプルなガラスの塔はそれ以降の建築界に大きな影響を与えました。



左:ティファニー本店、右:シーグラムビル



サミット・ワン・ヴァンダービルト展望台

次に、「クライスラー・ビル」に向かいました。1930年前の竣工で、当時278mで世界最高の高さでありましたが、1年後に「エンパイアステートビル」に抜かれてしまいました。アール・デコの最高峰と云われ、設計はウィリアム・ヴァン・アレン。

これで本日の研修は終了。次は午後5時予約している「サミット・ワン・ヴァンダービルト」の展望台の観光です。このビルの92・93階にある展望台は、鏡に囲まれた空間で景色や中にいる人々が反射する唯一無二の空間。ここからのマンハッタンの眺めはまさに絶景。少々高い入場料ですが訪れた価値があり、納得しました。

9月15日(日)3日目はアッパー・ウエストサイド地区、アッパーイーストサイド地区研修。まずは、「リンカーンセンター」に向かいました。ここはニューヨークのクラシック音楽の中心地。かつては、映画「ウエストサイド・ストーリー」にあったようなスラム街が、閑静な美しい街に変貌。センター広場の両サイドに「デビット・コークシアター」「デビット・ケルン・ホール」奥の「オペラ・ハウス」との建物のバランスとそれぞれの工夫された柱・壁の意匠のコンビネーションが素晴らしく、絶妙です。

次に「ダゴタ・アパート」に向かいました。このあたりは閑静な住宅地であり、このアパートは国の史跡にも指定されており、ビートルズのメンバー、ジョン・レノンとオノ・ヨーコがかつて暮らしていました。1980年にジョン・レノンはこの建物のエントランス前で熱狂的ファンにより射殺され、当時センセーショナルな事件となりました。

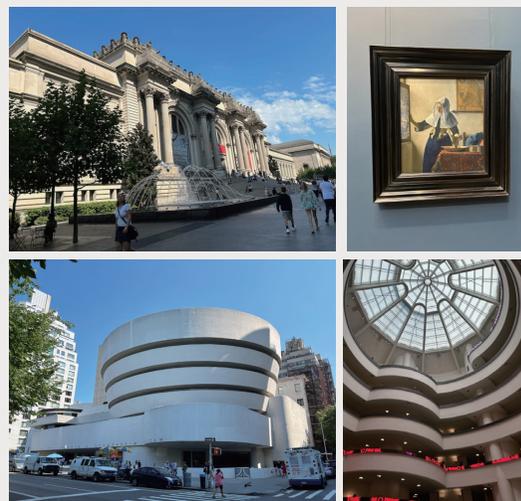
そこから、「セントラルパーク」を東西に横断しました。多くのニューヨーク市民が愛してやまない広大なシンボルの公園。南北約4km、東西約800mで面積は3.4km。動物園、池、オブジェ、劇場などが点在しており、まさにニューヨークの憩いの場。その際ジョギングをする人々に触発され、

思わずひと走りしましたが、いい思い出になりました。



左上:リンカーンセンター、右上:ダゴタ・アパート、左下:セントラルパーク、右下:ジョギング姿

次に向かったのは、「メトロポリタン美術館」。ロンドンの大英博物館、パリのルーヴル博物館と並ぶコレクションの多さで、その数は2万点以上言われています。ギャラリー数は世界一。ギリシャ・ローマ美術、ヨーロッパ彫刻、エジプト美術、アジア美術、その他ありとあらゆるコレクションが収蔵されています。私の好きなフェルメールの絵が5点も展示されており、感激しました。そこからすぐ近くの「グッゲンハイム美術館」に移動しました。この美術館は巨匠フランク・ロイド・ライトの設計による建物で、1959年に完成しました。カタツムリの殻と形容される螺旋状の構造の建物であり、美術館の概念を覆したと言われる作品です。美術館としては比較的小規模な建物ですが、中央部が吹き抜けになっており、螺旋状の廊下を回りながら美術品を鑑賞するシステムになっています。



左上:メトロポリタン美術館、右上:フェルメール、下:グッゲンハイム美術館

次に、ニューヨーク随一の繁華街「タイムズスクエア」に向かいました。1980年代には、「犯罪の巣窟」と言われた場所でしたが、再生計画によりエンターテインメントビジネスの街に変貌しました。マンハッタン随一の繁華街であり、多くの観光客でにぎわっておりますが、ゆっくり散策する時間が取れず、ここではレンゾ・ピアノ設計の「ニューヨークタイムズビル」の外観のみ見学してから、チェルシー&ミッドウエスト地区に移動しました。

ハドソンリバー沿いのハドソンヤードは、開発が進む近未来的ゾーン。トーマス・ヘザーウィックデザインの斬新な形の展望台「ヴェッセル」や、アートセンター「シェッド」も刺激的で、中でも1980年代に廃線となった高架鉄道の跡地が活用された約9mの高さにある空中歩道「ザ・ハイ・ライン」は、付近のビル街が一望でき、高層ビル群と自然が融合したスペースとなっており、都心の中の快適な空間を堪能しました。また想定外ですが、この歩道沿いにあるザハ・ハジド設計の共同住宅を間近で見ることができラッキーでした。最後に午後8時に予約していた本日のメインイベント・ジャズの聖地『ヴィレッジ・ヴァンガード』でピアノ、ドラムス、ベースのトリオの本場のジャズをたっぷり堪能し、3日目を終わりました。



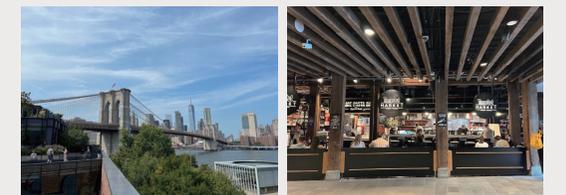
左上:タイムズスクエア、右上:ヴェッセル、左下:ザ・ハイ・ライン、左下:ヴィレッジ・ヴァンガード

9月16日(月)4日目。いよいよニューヨーク最後の日。夕方にピッツバーグに移動しなければならないため、午後3時頃までの研修です。まずは、午前中「自由の女神」観光。マンハッタン最南端部からフェリーで約2km先のリパティ島に渡りました。「自由の女神」はアメリカ合衆国の独

立を記念して、独立運動を支援したフランス人の募金によって贈呈され1886年に完成しました。アメリカの自由と民主主義の象徴であり、アメリカのシンボルともいえる像です。7つの突起が付いた冠は7つの海と7つの大陸を示し、左手に抱えているのは独立宣言の銘板です。

次にブルックリン地区に移動しました。ブルックリンの象徴はロウアーマンハッタンを結ぶ全長約2kmのブルックリン大橋で、1886年に完成しました。世界初の鋼製の吊り橋であり、そのワイヤーが描く幾何学的な模様が美しく、ダンボ地区から橋の遠くかなたから見えるマンハッタンの高層ビル群との調和は絶景。必ずスケッチにしようと思っていた場所です。その後、ブルックリン大橋とマンハッタンブリッジのたもと、ダンボ地区の「アーチウェイ」近辺を散策しました。古い倉庫を利用したショップやレストランが多数あり、特に古い倉庫を利用した「エンパイアストア」では、クリエイティビリティ溢れる『ブルックリンスタイル』の店舗を数多く観察でき、今後の内装設計に大いに参考になりました。

9月17日(火)5日目は待ちに待ったフランク・ロイド・ライト設計の「落水荘」見学です。午前9時30分に「落水荘」の近くにある同じくライト設計の住宅「ケンタックノブ」、午前11時に「落水荘」を予約しており、2つの施設はピッツバーグから現地まで、車で2時間程度かかるミルラン地区の奥深くの山の中。しかもその日に次の目的地、フォートワースに移動予定であり、空港を午後5時に出発しなければなりません。これらの施設見学のため2か月前にガイドツアーを終日貸し切り予約をしておりました。



左上:自由の女神像、右上:フェリーからマンハッタンを臨む、左下:ブルックリン大橋、左下:ブルックリンスタイル

予定通り、午前9時30分に最初の見学地「ケンタックノブ」に到着しました。この住宅は「落水荘」建設から20年後に設けられましたが、設備は近代化されデザイン的にも洗練されて自然に溶け込み、とても美しいプレーリースタイル(草原様式)の平屋横長の住宅です。完成は1956年。ライト晩年の作品であり、天井は低く平面の軸線が変則で、間取りに特徴がありました。

そこから車で15分程度移動し、「落水荘」に行きました。言わずと知れたライトの設計による世界的に有名な作品であり、今回のアメリカ研修の目玉です。1836年に建設され世界遺産に指定されている住宅。大きな窓からは雄大な自然の木々や滝の流れを臨める構成で、自然の滝と建物のバランスが絶妙。この滝と建物を包み込むように静かに佇む森がなければこの建物は成り立たなかったであろうと思われます。広いオープンスペースのリビングは石が敷き詰められ、暖炉や壁にも地元で採取した石が貼られています。木製の枠組み天井や木製の窓枠のワイドな窓、家全体に自然との調和や温かみを感じ取れる構成です。“建築とは大自然にささげる聖なる捧げものである”と唱えたライトの住宅の真骨頂の建築。1時間程度のガイドの説明付きで内外の隅々まで見ることができ、念願が叶い、感激ひとしおでした。



上:ケンタックノブ、中央:落水荘外観、下:落水荘内観



左:ピッツバーグの市街地を臨む、右:運転手のジョージと

非常にタイトな一日であり、ピッツバーグの市街地を通過しないルートで空港まで移動する予定でしたが、ドライバーのジョージが気を利かせてくれ、ピッツバーグの市街地を一望できる高台のビュースポットを経由。ピッツバーグの美しい街並みを一望することができ、その後無事時間通りにピッツバーグ空港に到着しました。

9月17日(水)6日目はダラス・フォートワース研修。まずは、博物館や美術館が多数ある“カルチュラディストリクト地区”に行きました。最初に、「エイモンカーター・アメリカ美術館」を訪れました。19~20世紀のアメリカ絵画や彫刻に焦点を当てた美術館。アメリカモダニズムの巨匠フィリップ・ジョンソンが設計した建物はシンプルではあるが、エレガントな外観です。テキサス州ならではのカウボーイ題材の絵画がたくさん展示され、他の地域の美術館とはいささか趣が違う印象でした。

ここでは午前10時の開館前にすでに授業の一環として、エレメンタリースクールの先生が生徒を引き連れ、主だった絵画を詳細に説明。生徒達が床に座り熱心に聞き入っている姿が随所に見られました。子供の情操教育を養うことに熱心なアメリカの教育は、ヨーロッパの美術館でも見られた光景であり、日本の教育との違いを思い知らされました。

そこから、「キンベル美術館」に向かいました。アメリカに来たからにはルイス・カーンの設計した建物を見なくてはとの思いで、彼の代表作であるこの美術館を選定した次第です。外観は連続したヴォールト屋根のシンプルな形ですが、内部空間が素晴らしく、この建築の最大のテーマは自然光を展示室に取り入れること。頂部に設けられたトップライトから差し込んだ光が反射板にバウンドしてヴォールト天井に拡散する仕組みで、居心地の良い良質な空間です。

その後、同一敷地内のレンゾ・ピアノが設計した「ピアノ・パビリオン」に移動しました。この建物は「キンベル美術館の新館」であり、2013年に建設されました。「キンベル美術館」を含めた周辺環境を圧迫しないよう建築の半分が地下に隠されていますが、全体が異なる素材を適材適所に使い分けた構造の建築です。その後、隣接する「イサム・ノグチ庭園」を見学し、近くの安藤忠雄設計の「フォートワース美術館」の外観のみ見学後、ダウンタウン地区に移動しました。

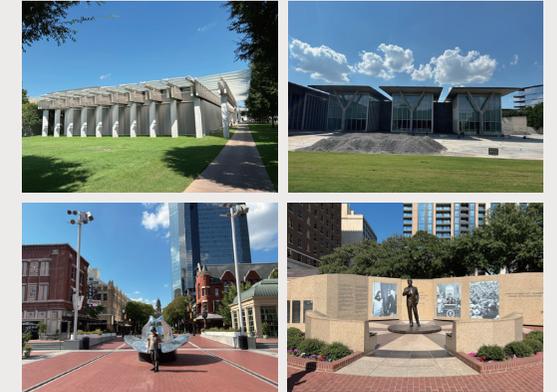


上:エイモンカーター・アメリカ美術館、左下:キンベル美術館、右下:内部空間

ダウンタウンでは、繁華街“サンダンスクエア”や“ウォーターガーデン”を散策しましたが、その途中、ダラスで1963年テキサス州にて選挙遊説中に暗殺されたケネディの記念碑に思いがけなく遭遇。当時中学生だった私は銃で撃たれた瞬間の映像を鮮明に覚えており、感慨深いものがありました。

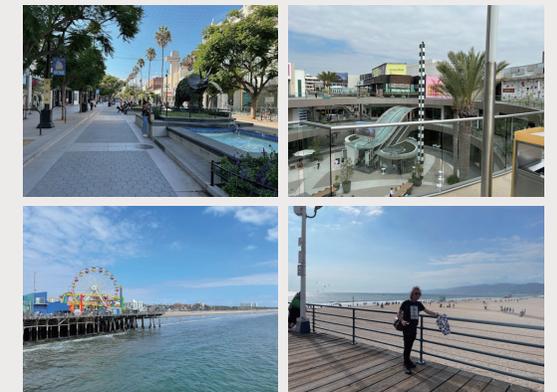
9月19日(木)7日目。早朝、ダラス・フォートワース空港からロサンゼルス空港に移動しました。この日は、タイトな移動の疲れもあり、建物研修も予定に入れていないことから小休止。午後からは宿泊地サンタモニカ散策のみに留めました。

サンタモニカは人口10万人程度のリゾート地であり、ロサンゼルス西部海沿いに位置します。私は南フランスのニースのようなイメージを勝手に思い描いていましたが、思ったより規模が小さめで、海岸沿いのロケーションもニースのようなスケッチに描きたい修景ではありませんでした。



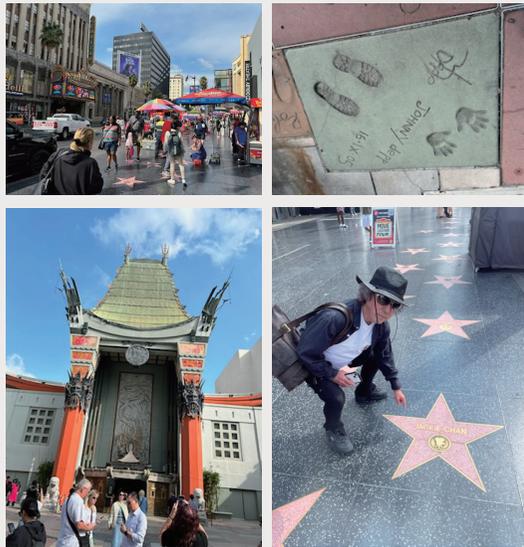
左上:ピアノ・パビリオン、右上:フォートワース美術館、左下:サンダンスクエア、右下:ケネディ大統領記念碑

まずは、“サードストリートブロードワード”に行きました。カフェやショップ、映画館等が集まる歩行者天国ゾーン。また、ロサンゼルスを本拠地とするドジャースのチームショップ等もあり、週末の夜には大道芸人のパフォーマンスも楽しめ、ぶらぶら歩き時間を過ごすには格好の場所です。次に“サンタモニカ・プレイス”に向かいました。この施設は開放感溢れるオープンエアの3階建てのモール。ブランドもののショップやダイニング施設が混在している施設です。そこから、海岸沿いの施設、“サンタモニカ・ピア”に移動しました。1909年に造られた木造の栈橋はハリウッド映画にもよく登場するサンタモニカのシンボリック施設。遊園地もあり、ビーチではまだまだ海水浴を楽しむ人々が多数いました。この日の街並み散策はここまで。早めに切り上げ翌日に備えました。



左上:サードストリートブロードワード、右上:サンタモニカプレイス、左下:サンタモニカ・ピア、右下:サンタモニカビーチ

9月20日(金)8日目。今日はハリウッド地区、ビバリーヒルズ研修です。午前中にハリウッドに移動しました。ここも建築的に価値のある建物は少なく、観光の色合いが強い一日です。まずは、TCLチャイニーズシアター。往年の映画スターの手形や足形が映画館前に並ぶハリウッドで最も有名な観光名所。朱色の太い柱、竜や獅子等中国の寺院を思わせる装飾の建物で、世界で一番有名な映画館です。メインストリート“ハリウッド・ブルーバード”沿いにろう人形館、ハリウッドミュージアム、アカデミー賞受賞会場・ドルビーシアター、オペションハリウッド等、ハリウッドにまつわる施設が軒を連ね、一見きらびやかな雰囲気ですが、大通りを進むにつれシャッターを閉めている店舗も数多く、映画文化の凋落感が漂い、往年の華やかさは感じられません。ただし、この通り歩道面に綿々と続く、ハリウッドの一流スターの名が刻まれた星形の星形の“ウォーク・オブ・フェイム”は映画の街ハリウッドならではの歴史の重みを感じられます。



左上:ハリウッドの街並み、右上:ジョニー・デップの手・足型、左下:チャイニーズシアター、右下:ウォーク・オブ・フェイム

午後に“ビバリーヒルズ”に移動しました。ここではまず“ロデオドライブ”を散策しました。世界中の高級ブランドショップが競って軒を連ねるショッピングゾーン。この地区は映画“プリティ・ウーマン”のロケ地であり、主演俳優ジュリア・ロバーツが映画のシーンでコルガールから、高級ブランドに目を包み淑女に生まれ変わっていくシーンが思い出されます。ともかくバリーヒルズの中でも格別の通りです。

ここでは、やはり、映画“プリティ・ウーマン”のシーンで、大金持ち役のリチャード・ギアが、定宿としていたロケ地の高級ホテル“ビバリー・ウィルシャー・ビバリーヒルズ”のすぐ前にある、ヨーロッパの街角を模した“トゥー・ロデオ”の一角のレストランで昼食をし、つかの間のゴージャス気分を味わいました。その後サウスサンタモニカ・ブルーバード、ビバリーヒルズガーデンパーク北西部の住宅街等を散策しました。公園はヤシの木の街路樹がどこまでも美しく続き、街全体がとても洗練されたイメージでした。

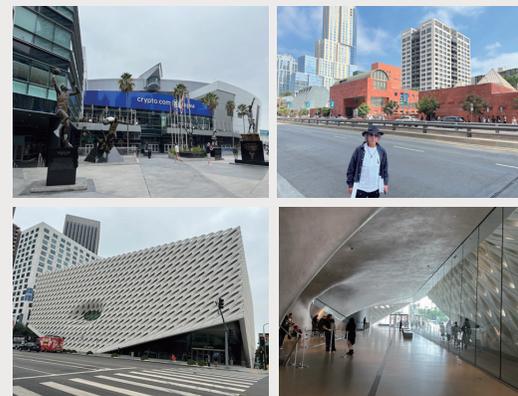


左上:ロデオ・コレクション、右上:ビバリーウィルシャーホテル、左下:トゥー・ロデオ、右下:ガーデン・パーク

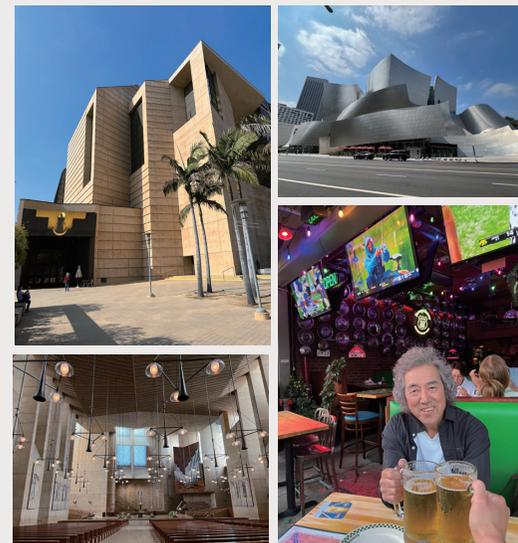
9月21日(土)9日目。いよいよロサンゼルス研修最終日です。本日はダウンタウン地区を巡ります。まずは、スポーツから音楽まで楽しめる一大エンターテインメント複合施設「L・Aライブ」を訪れました。この辺りは荒廃していた地域でしたが、この施設ができたことにより環境が一変したようです。向かいにある「クリプト・ドット・コム・アリーナ」は宇宙船のような外観の施設で、コンサートホールやスポーツなどに使われる多目的イベント会場です。

そこから、次の目的地に移りました。まずは、2015年にオープンした現代美術館「ザ・ブロード」に行きました。設計者はニューヨークの「ザ・ハイ・ライン」の設計者、デラー・スコフィーディオ&レンフロ。このハニカム構造のような外壁は、建物の強度を持ちながら屋内に外の光を取り入れる工夫がされており、設計者が“ペール”と呼ぶ特徴的なファサードです。アンディ・ウォーホルやパスキア等の見逃せない現代アート作品が多数観られ充実感がありました。

その後、すぐ近くにある「ウォルト・ディズニー・コンサートホール」に向かいました。設計者はフランク・ゲーリー。外観は波打つようなステンレススチールのパネルで構成され、ウォルト・ディズニーの妻の進言で2003年に建設されました。ロサンゼルスの名物通りになりつつあるこの通りの建物の中でも圧倒的存在感があり、異彩を放っています。次はすぐ近くにある「ロサンゼルス現代美術館」に行きました。1986年に磯崎新の設計により建設された美術館。アメリカン・コンテンポラリーアートを中心に所蔵した作品が展示されています。“ポスト・モダン”が主流のデザインの時代の建築であり、私の好みの外観デザインですが、前述した2つの建築と比べると近くにあるがゆえ、幾分存在感で見劣ります。



左上:クリプト・ドット・コム・アリーナ、右上:ロサンゼルス現代美術館、下:ザ・ブロード



左:天使のマリア大聖堂

上:ウォルト・ディズニー・コンサートホール、下:誕生日会

その後、最後の見学地「天使のマリア大聖堂」に行きました。この建物はスペインの建築家ホセ・ラファエル・モネオの設計で2002年の完成。内部は3000人収容可能な大空間で、外部から差し込む柔らかな日差しと基本的にRC打ち放しの内部空間はモダンな雰囲気。特殊なライティング設備により明るく新鮮な雰囲気が漂います。後は「ユニオンステーション」に少し立ち寄り、これでこの日の研修は滞りなく終了しました。

ちなみに、翌日は私の誕生日。その日の早朝帰路に就くため、毎年恒例となった海外での私の誕生日会を、一日繰り上げ、サンタモニカの“サードストリートブロードナード”にある、店内のテレビでスポーツ観戦が可能な名物レストランで開催。全旅程を滞りなく終え、翌日9月22日(日)ロサンゼルス空港を出発し、9月23日(月)羽田空港に無事到着しました。いつものタイトな旅程でしたが、充実感いっぱいのアメリカ研修旅行となりました。

アメリカの風景 スケッチ その5

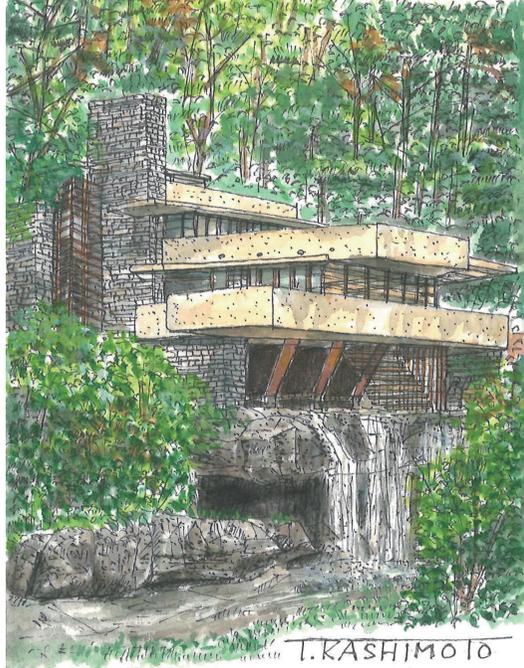
ニューヨーク・ピッツバーグ・
フォートワース・ロサンゼルス研修編

architect office:

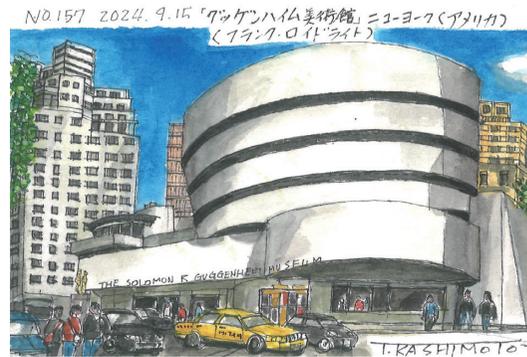
(株)アーキノヴァ設計工房

代表取締役 柏本 保

NO.156 2024.9.17 「落水荘」アメリカ
ピッツバーグ
フランク・ロイド・ライト



◆ No.156「落水荘」
言わずと知れた世界の巨匠、フランク・ロイド・ライトの設計による世界的に有名な作品で、1936年に建設されました。ピッツバーグから車で約2時間の山中にあり、屋内の床と張り出したテラスはフラットになっており、大きな窓からは雄大な大自然の木々や滝の流れを臨める構成。世界遺産に登録されており、自然の滝と建物のバランスが絶妙。今回の建築研修の目玉であり、実物の建物をガイド付きで内部の隅々まで見ることができ、念願が叶い感激ひとしおでした。



◆ No.157「グッゲンハイム美術館」
この建物は「落水荘」とは意匠の趣が異なるが、巨匠フランク・ロイド・ライトの設計であり、1959年に完成した。カタツムリの殻と形容される螺旋状の構造の建物であり、美術館の概念を覆した作品である。中央部が吹き抜けとなっており、螺旋状の廊下を廻りながら美術品を鑑賞するシステム。

NO.158 2024.9.16 「自由の女神」ニューヨーク
(アメリカ)



◆ No.158「自由の女神像」
アメリカ合衆国の独立を記念して、独立運動を支援したフランス人の募金によって贈呈され、1886年に完成しました。アメリカ合衆国の自由と民衆主義の象徴。アメリカのシンボルとも言える像であり、世界各地から多くの人々が訪れます。人々が訪れる世界遺産に登録されている。



◆ No.159「ウォルト・ディズニー・コンサートホール」
波打つようなステンレススチールのパネルで構成され、異彩を放つ建物。フランク・ゲーリーの作品であり、ウォルト・ディズニーの妻の進言で2003年に建設された。ロサンゼルスにあり、数ある建物の中でも圧倒的な存在感がある。

NO.160 2024.09.16 ブルックリン橋(アメリカ)



◆ No.160「ブルックリン大橋」
ロウアーマンハッタンとブルックリンのダンボを結ぶ全長約2kmの橋で、1886年に完成しました。世界初の鋼製の吊り橋であり、そのワイヤーが描く幾何学的な模様が美しく、ダンボ地区から橋の遠くかなたに見えるマンハッタンの高層ビル群との調和は絶景。必ずスケッチにしようとの思いでした。

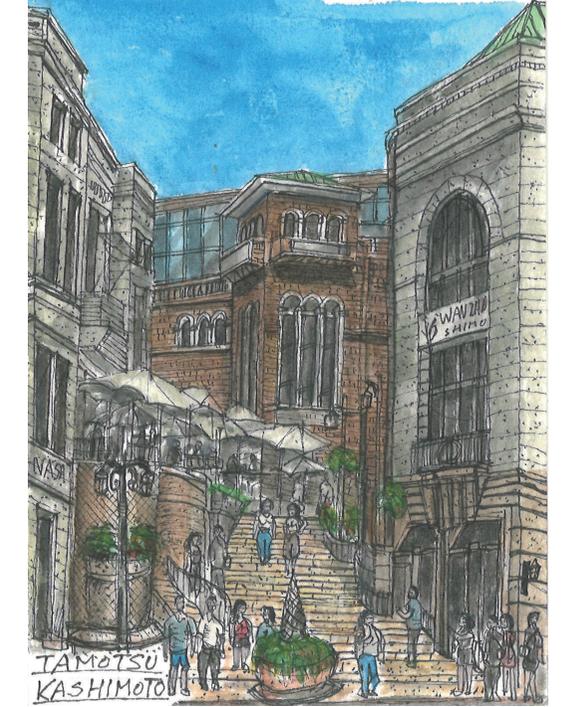
No.163 2024.09.18 キンベル美術館・フォートワース/アメリカ
ルイス・カーン



◆ No.163「キンベル美術館」
ご存じアメリカの建築家ルイス・カーンの名作です。外観はヴォールト屋根のシンプルな形の連続ですが、内部空間が素晴らしくこの建築の最大のテーマは自然光を展示室に取り入れるこ

と。頂部に設けられたトップライトから差し込んだ光が反射板にバウンドしてヴォールト天井に拡散する仕組みで、内部は実に居心地が良くいつまでも居たくなる空間である。

NO.161 2024.09.20 ビバリー・ヒルズ・ロスアム
(アメリカ)セルス

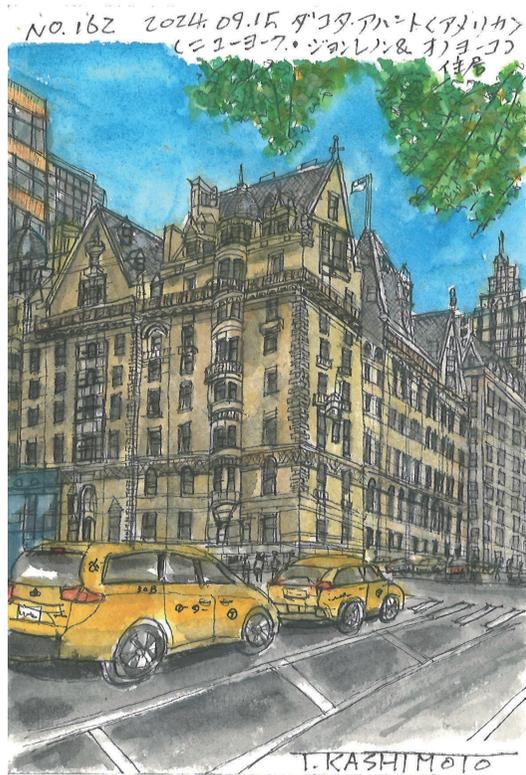


◆ No.161「ビバリー・ヒルズ・トーロデオ」
世界中の高級ブランド店が競って軒を連ねるロデオドライブ地区は、映画「プリティ・ウーマン」のロケ地であり、主演俳優・ジュリアロバーツが高級ブランドを身にまとうシーンを思い起します。トーロデオの一角にあるレストランで食事し、ゴージャス気分を満喫。

NO.164 2024.09.15 リンカーンセンター・ニューヨーク(アメリカ)



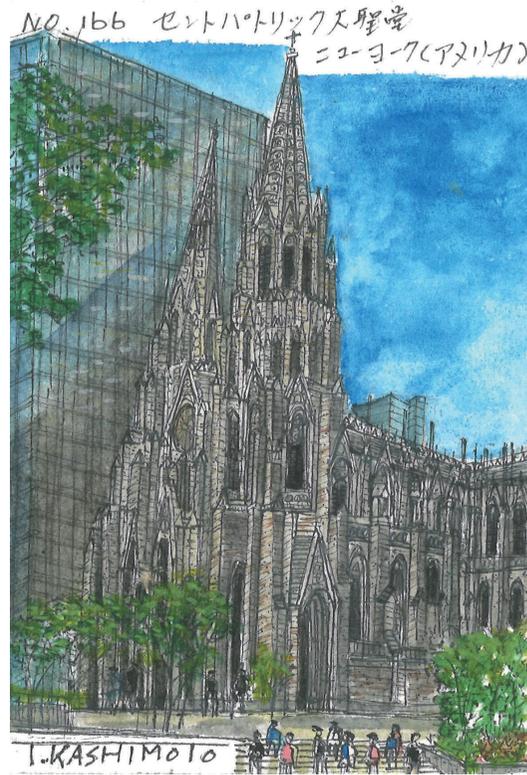
◆ No.164「リンカーン・センター」
ニューヨークのクラシック音楽の中心。かつては映画「ウエスト・サイド・ストーリー」にあったようなスラム街が閑静な美しい街に変貌。センター広場の両サイドに「デビット・コークシアター」、「デビット・ケルン・ホール」、奥の「オペラハウス」とのバランスと各建物意匠のコンビネーションが絶妙。



◆ No.162「ダコタ・アパート」
 国の史跡にも指定されたビートルズ・ジョン・レノン&オノ・ヨーコが暮らしていた、セントラル・パーク沿い的高级アパート。オノ・ヨーコは現在もこのアパートを所有していると言われている。1980年にジョン・レノンはこの建物のエントランス前で熱狂的ファンに射殺されました。



◆ No.165「セントラル・パーク」
 多くのニューヨーク市民に愛されているシンボリックな公園。南北約4km、東西約800mで面積は3.4㎡。動物園、池、オブジェ、劇場が点在しており、まさにニューヨーカーの憩いの場。当日公園を東西に歩いた際に、ジョギングする人々に触発され、思わずひと走りしましたが、いい思い出になりました。



◆ No.166「セント・パトリック大聖堂」
 アメリカ最大のカトリック教会であり、1888年に完成した建物。白い大理石をふんだんに使った教会のデザインは、ジェームス・ウィックによるもの。5番街に建つ、高さ約100mのその美しいゴシック建築は、高層ビル群と一見ミスマッチと思われるが、存在感があり、そのバランスに妙な味わいがある。

マカオ訪問記(Ⅲ)

architect office:

岡野建築設計室
岡野 政治



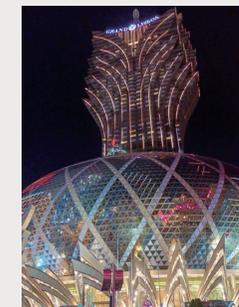
2020年(令和2年)「くすのき146号」、2024年(令和6年)の「くすのき150号」に掲載したマカオ訪問記に次いで、第3段のマカオ訪問記(Ⅲ)を掲載させていただきます。

2007年(平成19年)に初めてマカオ訪問し、その後も数回訪問、2024年(令和6年)もマカオ訪問をしてきましたので、一昨年に続き訪問記を皆様にご報告させていただきます。

マカオの訪問は日本からはフライト便も多く安価で旅行出来る香港経由コースが主流ですが、私はマカオ直行便が開通してからは全てマカオ訪問は関西国際空港から直行です。



マカオ国際空港 (タラップからバス移動)



上:グランドリスボア(夜景)、下:セナド広場

今回は令和6年12月8日から12月11日までの3泊4日でマカオでの食文化を食し、世界遺産など歴史的建築物の再探訪と初ホテル宿泊体験、そしてマカオの竹足場を建築探訪した訪問です。6万個のLEDが光り輝くグランド・リスボアやセナド広場や聖ポール天主堂跡など世界遺産のある周辺のリオホテルで宿泊、美味しい食文化に浸りカジノを楽しみ、

世界遺産探訪と竹足場の視察を楽しみました。今回はクリスマス前で世界遺産もライトアップや装飾がとても



聖ポール天主堂跡(夜景)

豪華で華やか。多くの観光客で夜遅くまでにぎわっていましたが日本人の姿はありません。翌々日カジノリゾートの集積地で多くのIR(総合型リゾート)施設が集まったコタイ地区に移動、大型エンターテインメントホテルのザ・パリジャン・マカに初宿泊という訪問です。



セナド広場夜に私

パリジャン・マカオ

翌朝、地元の人で人気の「陶香居酒家 澳門」という飲茶のお店に朝食に出かけます。朝からビール飲むのは私たちだけです。地元民は体内を冷やすことを嫌い朝は飲茶で始まります。このお店は安価で美味しく毎回訪問します。マカオに行かれるならこの食事はお勧めです。



陶香軒内部



北京ダック(丹桂軒)

翌日の夕食はスターワールドホテルに



ある有名な「丹桂軒」(Laurel)で、北京ダックを食べました(北京ダックの料理に関しては前回の訪問記IIに記載)。



上:金悦軒マカオ、下:広東粥(とろっとして美味しい)

到着夜と2日後朝は中国や台湾にもある高級広東料理店の「金悦軒澳門」で広東料理を食しました。以前中国の珠海にある金悦軒にも2回程訪問しましたがコスト的にも味も中国珠海店が良かったです。ちなみにどちらの店もスタッフは日本語はもちろん英語も通じません。

最終日の夕食は初宿泊したパリジャン・マカオのエッフェル塔内にある「La Chine」です。本格的な広東料理の魅力を芸術的なプレゼンテーションで一層高め、見た目も味も真のご馳走となるように工夫されています。私の食した高級海老スープの茹でポストロブスターおこげ添えは完成までの創作も魅力的で味も上品で濃厚なエビスープが絶品。お箸は2膳準備され1膳は各自の取り箸専用。



左:茹でロブスターおこげ添え、右:黒の1膳は取り箸専用、2膳で配膳

またモダンで心地の良い内装、そしてコタイストリップを望むパノラマビューでゆったりとくつろぐことができます。マカオ



La Chine 内部(エッフェル塔鉄骨躯体デザイン)

の食文化は私にとって大満足でした。

続いて今回は久しぶりにマカオ歴史地区のポルトガル統治時代の名残を残す街並みや世界遺産など歴史的建築物の再探訪を楽しみました。



ポルトガル式歩道のセナド広場(16世紀から18世紀にかけて中国人とポルトガル人が会したレアル・セナド(議事亭)がこの広場に面して置かれていたことに由来する)や聖ポール天主堂跡(大三巴牌坊)(マカオにあるポルトガルの17世紀の大聖堂の遺跡一石造りのファサードは可能な限り目立たない手法でコンクリートと鉄骨で補強されている)を昼夜探訪、その周辺の歴史的建築物である民生総署大桜(1584年ポルトガル統治時代の議事亭跡、1784年2階建バロック様式の建物に建替、その後2回改修、現在民生総署本部庁舎)や仁慈堂大桜(1596年、初期マカオ医療慈善活動拠点)バロック様式の聖ドミンゴ教会(1587年)や重厚な石造りで飾柱と2つの鐘楼が特徴の主教座堂(1937年再建)は厳かな空間を造り出しています。



上:民生総署大桜、下:民生総署大桜(内部)

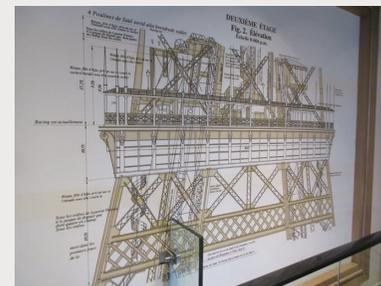


仁慈堂大桜



上:聖ドミンゴ教会(夜景)、右上:主教座堂(内部)、左下:主教座堂、右下:聖ドミンゴ教会(内部)

今回はコタイ地区のザ・パリジャン・マカオに初宿泊しました。



エッフェル塔図面(パリを詳細に実現)

このホテルは2016年9月に開業、パリの街並みをイメージして作られていて、全室2951室あり目玉は何と言ってもシンボルの「エッフェル塔」です。パリのエッフェル塔の1/2サイズで作られ、7階と37階に展望台があり、細部に至るまで忠実に再現しておりリアルで迫力あ



左上:南京錠橋、右上:エッフェル塔37階からの展望、左下:パリジャン・マカオ(夜景)、右下:パリジャンマカオ(宿泊室内)

ります。パリ・ボンテザールを模した「愛の南京錠橋」も恋人たちの愛の聖地もあり、37階の展望台から見える絶景は素晴らしい。夜は音楽に合わせてライトアップが変わるショーを楽しむことができます。マカオの観光スポットの人気スポットです。そんなエッフェル塔を眺めながら日常を忘れ、優雅に過ごすことが出来ました。部屋



バスローブと金庫

はデラックスルームで装飾も赤を基調とし、大きめのキングサイズベットがとても気持ち良いモダンな部屋でした。広いバスルームは大理石風の床、シャールームが別にある。またバスローブが肌触りがフワフワで着心地がとても素敵。そのまま着て寝ても私には気持ちが良い。



上:パリジャン・マカオロビー、中央:チェックインカウンター(赤基調)、下:エントランス奥廊下

今回はマカオで良く見られる竹足場をゆっくり視察しました。香港ではほとんど地震が無いから「ビルを建てる時、足場が竹で出来てる」話はマカオも同じであり

趣味から見えるもの

ます。建てかけの高い建物のまわりを竹が網の様にぐるりと囲み、竹で組んだ足場を作業員がひょいひょい歩いている。マカオは現在も建設ラッシュです。コタイ地区に次々とホテルが建設されていて建設作業員だけでマカオの人の数パーセントになると言われているようです。

マカオを巡ると街のあちこちで工事現場が見られ竹足場のオンパレード状況です。

日本では近代化に伴い単管や枠組みが主流となりましたが、マカオでは高層建築でもほぼすべてが竹足場によって建てられています。日本でいう朝顔(養生板を道路上空に跳ね出して落下物を防ぐもの)も竹で組まれしかもロープでつづいている様にも驚きます。竹はまず路面に直に突き立てられ養生材などは敷かない。控えはなんでもよくその辺にあるものを自由に使って



竹足場全景と朝顔とシート



竹足場通路

人になるにはライセンスが必要で専門の職業訓練校もあり、熟練された職人技でささえられているとのことようです。

竹同士を緊結するものは黒いナイロン紐で強度が求められ約50キロに耐えられる物で幅は5.5~6mm、厚さは0.85~1mmだそうで、竹は3~5年物、長さは6m程

度、直径4cm以上、3ヶ月は乾燥されたものと規定があるとのこと。



テープ紐

竹を使用する理由には①鋼管の1/5程度の価格で安価。(中国から質の良い竹材を安価に入手可能)②竹は軽く運ぶのも組立ても解体も楽。③高温多湿なマカオでは鉄が錆びやすく、竹は錆びにくく湿気を帯びることでより締まり丈夫になる。以上のような理由からそうですが、2024年2月に香港で30階建て住宅ビルの竹足場崩壊事故があったようで安全性などの面から将来の竹足場の行く末も気になるところであります。

2023年7月にマカオ政府とマカオ航空が合同で国内旅行商品の開発促進につなげる意向から、日本の旅行業界関係者を対象としたツアーを実施し、日本とマカオの観光モデルの構築と誘致に向けて日本へアプローチしたようです。長年のカジノ依存から脱却、エキゾチックな雰囲気が漂う歴史的建築物や教会群を巡るツアーやマカオ独自の食文化を体験できるグルメイベントなど新たな魅力を創造しようと挑戦しているマカオの将来に期待しています。

賛助会員紹介・広告

76- 賛助会員の未来に残したい技術・商品

82- 広告

Sponsor Introductions

淡路瓦工業組合	株式会社アスノ
淡路支部賛助会員一同	株式会社ジェイネット
住宅設計支援室株式会社	株式会社総合資格
大和船舶土地株式会社	阪神支部賛助会員一同
株式会社アーキノヴァ設計工房	株式会社APEX設計
岡野建築設計室	有限会社唐津設計測量事務所
川崎設計一級建築士事務所	元旦ビューティ工業株式会社
協立技研株式会社	有限会社建築設計工房真砂
神戸三宮東急REIホテル	社家一級建築士事務所
株式会社住信	スペースプロ一級建築士事務所
すまい工房一級建築士事務所	学校法人誠和学院 日本工科大学校
棚田建材株式会社	中川設計工房
難波金属株式会社	有限会社日事連サービス
株式会社原田建築設計事務所	ビタコラム工法協会
株式会社兵庫確認検査機構	公益財団法人兵庫県住宅建築総合センター
株式会社文化工学研究所	宝南設計
株式会社星加内装	株式会社山本設計

支部広告

神戸支部	淡路支部
明石支部	加古川支部
三田支部	西はりま支部
但馬支部	阪神支部
姫路支部	北はりま支部